

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

学校だより

つよし

—第8号—

令和2年6月1日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

## 「いのち」の大切さを考える ～自分の名前に込められた思い・願い～

津吉小学校では、例年、「津吉っ子の心を見つめる教育週間」を設定し、保護者・地域の皆様に学校を公開していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として9月に延期しました。しかし、「心を見つめる教育週間」設定の契機となった長崎や佐世保での事件を受け、本日の児童朝会で、「いのち」の大切さを考える校長講話を行いました。



今日は「命」の大切さについてお話ししたいと思います。皆さんは、「自分の名前は好きですか?」「自分の名前は

誰がつけましたか?」「自分の名前には、誰のどんな願いが込められていますか?」中津良に住む高野さんは、自分の娘に「美心(みこと)」と名付けました。その名前に込めた思いや願いを詩にしたら、その詩に曲がつけました。【曲を視聴】

名前を付けることを『命名』と言います。人は生まれてすぐに名前が付けられます。そして名前を付けられることで命を吹き込まれます。自分の名前には、家族の思いや願いが込められています。

皆さんは、命をもっていますよね。皆さんの命はどこにありますか。命は、目に見えないもの、手で触れることもできないもの。だけど、皆さんは、その命をもっています。空気がなければ、人間も動物も生きていくことはできません。その大切な空気を、私たちは見ることはできませんね。本当に大切なものは目に見えないことが多いのです。目には見えないけれど、大切な命。この命は、皆さんのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そのまたおじいちゃん、おばあちゃんからいただいたものです。ですから、皆さんの命はとっても大事な大切なものなのです。目に見えない「命」を形にしたのが、「名前」かもしれません。

それでは「命を大切にする」とは、どうすることでしょうか?命を大切にすることは、与えられた命という時間を大切にすることです。命という時間を上手に使わないと、命を大切にしているとは言えません。

「命という時間を大切にする」ために、是非4つのことを実行してほしいと思います。

- ① 命という時間を上手に使う
- ② (命という時間を失わないために) 安全に気をつけた行動をする
- ③ (命という時間を幸せに過ごすために) 自分以外の人も大切にすること
- ④ 命という時間が(代々)つながっていることに感謝すること

最後に、皆さん一人一人は、かけがえのない大切な人です。ご両親は勿論、先生方も皆、皆さんが大好きです。皆で、命という時間を大切にすることを津吉小学校にしてほしいと心から願っています。

去る5月13日の本紙に、石川遼選手の父勝美さんが、前日、長崎で行った講演会の記事が載っていた。短い記事ではあったが、「さすが、この親にして」と強く印象に残っている。

「小学3年のころ、講習会で学んだあいさつの基本やゴルフができる環境に感謝するという姿勢が今も生きている」という。「ゴルフができる環境に感謝する姿勢」というのが光っている。また、自身の子育てについては「家で教師のことを悪く言わない。感動した本を子どもにも薦める。愛情を込めて名付けた名前の由来を話す」。この三つは、家庭教育の要点だと分かっている。実行はなかなか



お徳と 田平 ひら

## 名前の由来を話す

難しい。ここでは三つ目の「名前の由来を話す」ことについて述べたい。

かつて、図書館に職場体験学習に来た中学生に講話する時、まず自己紹介させ、①自分の名前は好きか②誰が名付けたのか知っているか③名前に込められている願いは、と一人一人に尋ねていたが、各人各様の答えで、興味深かった。一方、カウンターでは、なりたての父親が、名付けに関する本を何冊も借りたり返したりする姿を見ながら、わが子の名前に対する

で「明日香にしたってほんとう？」という文もある。

人の誕生から名付けに至るドラマは、本人の知らない世界のことだけに、保存するだけでなく、折々に、写真を見ながらでも、本人に伝えてこそ宝なのではないか。

成長の途上、自信や意欲を失ったとき、あるいは喜びの絶頂で、このドラマを聞き、自分がいかに「願われ、期待され、祝福された存在」であることを知れば、新たな勇気と意欲と感謝の念を持って再出発する契機になるかもしれない。

この世に生を受けたこと自体がドラマなのだから。頻発する親子の悲劇に接するたびにそう思う。

(前諫早市立諫早図書館長)

## 名前の由来を話す

本日の「命」についての講話は、長崎新聞に掲載された右記の記事をもとに考えました。石川遼選手の父親の教育方針の一つに「愛情込めて名付けた名前の由来を話す」とあり、名前を付けることが『命名』ということから、命の大切さと結びつくように感じたからです。

名前は、家族の思いや・願いが込められたものであり、その由来を知ること、自分が「願われ、期待され、祝福された存在」で生まれてきたことを知り、家族からの深い愛情を感じることができはるはず。

家族が、名前に託した願いは、これからの子供たちにとって、きつと人生の羅針盤となり、苦難の時の応援歌となるものと信じています。